

学校評価書

総社市立総社小学校
校長 高杉 整二
(公 印 省 略)

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実【やさしい子】

- ① 教育大綱「総社を愛する子ども、心優しい子供、礼儀正しい子供」を踏まえ、道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実させることにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。

- ・毎月、品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行い、次年度に繋がるよう授業の流れ、ワークシート等はデータで残し、資料は教材ごとに整理し、継続した道徳教育の充実に繋がるようにした。また、学習した道徳的価値を認め合いの掲示物に示すことで学習を日常生活に活かすための取組を始めた。
- ・6月の「いじめについて考える週間」や12月の「校内人権週間」等を中心に、いじめについての話を聞いたり人権標語に取り組んだりするなど様々な取組を通して、自分や友達を大切にすることや態度をはぐくむことができた。

② 認め合い活動

- ・教室内や廊下に児童のがんばりを認める掲示物がたくさん見られ、友だちのやさしさやがんばりを記したくすの葉は1月末現在で3,000枚を超すなど認め合い活動の充実が児童同士の絆や思いやりの心を育てることに繋がっている。来年度以降も本校の大きな柱として、この取組をさらに充実させていきたい。
- ・縦割り班活動を積極的に取り入れることにより異学年の関わりを大切にすることができた。

2 健康・体力づくり【たくましい子】

- ③ 「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。

- ・「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし、品格教育のテーマ「あいさつ」4月、「礼儀」1月は挨拶の強化月間とする。また、毎月第一週の生活目標を「あいさつ」とし、継続して指導を行うとともに生活委員会や計画委員会、6年生ボランティアを中心にあいさつ運動の取組を行った。こうした取組の成果として朝だけでなく校内で出会った時、多くの児童が進んであいさつができています。また、地域にも目を向け、地域ボランティアへのアンケートを行い、地域の方へのあいさつについても意識づけた。
- ・「き」きちんと歩行は、生活委員会が歩行を呼び掛けるポスターを廊下に設置したり、下校時には計画委員会を中心に廊下に立ったりして黙ってきちんと移動できるよう促した。その結果、児童の意識が高まってきた。
- ・「だ」“だまって掃除”については、6年生のリーダーシップと担当教員の継続的な呼び

掛けで、徹底できるようになってきている。

④ **健康教育・特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、減メディアの取組を推進する。**

- ・ 基本的生活習慣の中で特に、重点として感染症対策とメディアコントロールの2項目を取り上げ、毎朝、手洗い・換気励行の放送を行い、習慣付けを図った。メディアコントロールについては、総社東中学校の年5回の定期考査に合わせて「メディアコントロール週間」に取り組んだ。児童には保健委員会による校内放送、家庭には保健だより等を発行して意識の向上を図った。
- ・ 年間5回のメディアコントロール週間を中心に、減メディアや早寝早起き等に関する取組や家庭への啓発に取り組んできた。児童・保護者・教職員は目標の80Pに達している。家庭でのメディアのルールは各家庭の考え方によるものが大きく、家庭への踏み込みについては難しさを感じるが、時間だけに注目するのではなく、メディアとの付き合い方に視点を向けた指導に取り組んでいきたい。

⑤ **目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。**

- ・ 保護者のアンケートではポイントが下がっている。春から夏にかけて熱中症、下校後の外遊びについては防犯の面から、外遊びの声掛けができにくい状況である。児童会の取組として、運動委員会が全校でチャレンジランキングに挑戦する取組を行い、全校で運動をする機会をもつことができた。

3 確かな学力の育成【すすんで学ぶ子】

⑥ **児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力を身に付けることができるように 授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。**

- ・ 今年度も学年、年齢層の異なる3人が1グループでOJTの取組を行い、互いの授業を見合い、振り返り、授業力の向上を図った。

⑦ **朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り基礎学力の定着を目指す。**

- ・ 朝学習の時間には基礎学力、「総小チャレンジタイム」には表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また、朝学習や「総小チャレンジタイム」には、学校支援ボランティアや学びの基盤づくり事業の協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果、6年生対象の全国学力学習状況調査や3～5年生対象の岡山県学力テストでは、平均正答率が上がり、これまでの取組の成果が見られた。5年生は、昨年同様3学期からの朝学習は、習熟度別で実施している。来年度も①授業、②授業外（朝学習、総小チャレンジタイム）、③家庭学習の3本柱を軸により充実した取組を行い、学力向上を図っていきたい。

4 地域とともにある学校づくり

⑧ **各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。**

- ・ 学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともにホームページや「すぐる」を使って情報共有を行ってきた。また、各種会議等の場を使って、現状や学校としての考え・取組を理解していただけるよう説明責任を果たしていきたい。

⑨ **きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。**

- ・ 総社東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校と連携し、確かな学力の向上を目指し、学び

の基盤となる力の向上、教職員の授業力向上、教職員のチーム力向上を柱に様々な活動に取り組んだ。今年度も、校種を超えたピア・サポート活動、幼小・小中の情報共有、東中オープンスクール等は実施ができた。今後も、東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校とさらに連携を深め12年間を見通した取組を進め、児童の健やかな成長を促していきたい。また、保育園や、高校、大学との連携も進め、多くの繋がりの中で子どもたちを育んでいきたい。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	萱原 潤 (地域住民)
中川 麻衣子 (川崎医療福祉大学)	三上 啓子 (有識者)
宮本 由里子 (地域住民)	平松 桂子 (地域住民)
高見 郁 (PTA会長)	小西 優 (PTA副会長)
吉藤 典子 (PTA副会長)	

3 学校関係者評価

- ・心の教育の充実については、これまでの取組の成果が表れているため、今後も継続した取組に期待したい。
- ・健康・体力づくりの推進については、児童会の取組を活用した感染症対策、望ましいメディアとの付き合い方の指導など改善策を中心として有効な取組をしてもらいたい。また、調査項目の改定も考えていただきたい。
- ・確かな学力の育成については、児童の学力の分析を基にした教職員の取組が評価できる。今後は保護者と連携した取組を期待したい。
- ・地域とともにある学校づくりについては、情報発信について、保護者の達成状況が大きく向上しているところが評価できる。今後も継続した取組に期待したい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題、学校関係者評価等をふまえて、学校経営目標を本年度より高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。